

◆消化器内科

副院長 藤本貴久・築村哲人・長島不二夫

消化器内科の常勤医師は3名、非常勤医師は1名。消化器内科外来は週5日であり、肝臓専門外来を熊本大学病院から派遣の非常勤医師が週1日担当した。

内視鏡検査実績 (件)

	2020年度	2019年度
上部消化管（処置、健診を含む）	1441	1810
下部消化管（処置を含む）	570	734
ERCP（処置を含む）	8	11
超音波内視鏡	0	0

内視鏡治療実績 (件)

	2020年度	2019年度
食道ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）	0	0
胃ポリペクトミー（EMRを含む）	3	1
大腸ポリペクトミー（EMRを含む）	91	131
胃ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）	5	3
大腸ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）	1	1
食道胃静脈瘤治療（EVL, EIS, APC）	1	0
内視鏡的止血術（上部）	12	22
内視鏡的止血術（下部）	1	7
異物除去	4	0
食道狭窄拡張術（ステント、バルーン）	3	1
PEG造設	6	2
PEG交換	15	20
内視鏡的胆道ステント留置術	2	5
内視鏡的乳頭切開術	5	3
内視鏡的採石術	1	1

内視鏡検査件数は新型コロナウイルス感染の影響を受け、昨年度と比較して全て減少した。内視鏡治療件数も昨年度と比較して概ね減少したが、胃ポリペクトミー、胃ESD、異物除去、食道狭窄拡張術、PEG造設、内視鏡的乳頭切開術の件数は増加した。

主な消化器疾患入院症例数（主病名のみで重複なし） (例)

	2020年度	2019年度
逆流性食道炎	1	1
腐食性食道炎	2	0
マロリー・ワイス症候群	0	1
食道・胃静脈瘤	2	0
食道異物・咽頭異物	2	0
早期食道癌	0	0
進行食道癌（術後を含む）	1	1
術後食道胃吻合部狭窄	1	0
胃毛細血管拡張症	1	1
胃ポリリーブ	4	2
早期胃癌（外科転科症例を含む）	4	3

進行胃癌（外科転科症例を含む）	7	3
幽門狭窄症	1	0
十二指腸狭窄症	0	1
ダンピング症候群	0	0
十二指腸乳頭部癌	0	1
(出血性)胃十二指腸潰瘍	7	17
急性胃腸炎	4	6
急性胃拡張	1	0
大腸ポリリーブ	45	53
空腸消化管間質腫瘍	1	0
回腸炎	2	0
大腸癌(腺腫内癌、外科転科症例を含む)	9	10
大腸憩室出血	7	7
感染性腸炎（出血性腸炎を含む）	2	4
イレウス(サブイレウスを含む)	4	7
虚血性大腸炎	20	8
潰瘍性大腸炎	1	1
大腸憩室炎	0	5
偽膜性腸炎	0	1
上腸間膜動脈症候群	0	0
S状結腸軸捻転	2	0
S状結腸穿通	1	0
直腸カルチノイド	0	3
直腸神経内分泌腫瘍の再発	1	0
消化管出血（出血源不明）	5	2
急性虫垂炎	0	2
癌性腹膜炎	0	1
腸間膜脂肪織炎	1	0
薬剤性下痢症	1	0
肝障害	4	4
急性肝炎	1	1
自己免疫性肝炎	0	0
転移性肝腫瘍	2	0
肝硬変（肝不全を含む）、腹水	2	8
肝性脳症	1	1
肝細胞癌	3	6
胆管細胞癌	1	0
肝膿瘍	3	0
胆石胆嚢炎（外科転科症例を含む）	11	9
総胆管結石性胆管炎	2	11
胆石性膵炎	1	2
胆石疝痛	0	0
胆嚢癌	1	1
胆嚢摘出術後	1	0
急性胆管炎	0	7
胆管癌	1	2
急性膵炎（慢性膵炎急性増悪を含む）	4	6
膵臓癌	3	1
食欲不振、栄養障害	2	0
高度貧血（大球性貧血を含む）	7	0
急性アルコール中毒	2	2
その他（新型コロナウイルス感染40例を含む）	286	282

入院症例の高齢化に伴い、何らかの合併症を有する症例が多かった。原疾患は治癒しても、合併症のために入院期間が長くなるケースが多かった。手術や化学療法可能な症例が減少し、緩和ケアを行う症例が増加した。今まで経験のない新たな疾患も散見され、疾患は多岐にわたった。新型コロナウイルス感染の影響を受け、全体的に症例数が減少した。しかし、消化管疾患においては、進行胃癌、虚血性大腸炎、消化管出血（出血源不明）などの症例が増加した。肝胆膵疾患においては、肝膿瘍、胆石胆嚢炎、膵臓癌などの症例が増加した。